

—日立製作所亀有工場全景—

本邦第1位 21,000 kW 揚水ポンプ

21,000 kW Water Jet Pump, the Largest in Japan

東北電力株式会社沼沢沼揚水発電所用水車、発電機、ポンプは数ヶ年間に亘つて調査研究し、昭和25年3月末受註以後は、日立製作所は全社を挙げて製作中であつたが水車、発電機は26年末から既に運転しており、亀有工場に於てポンプは契約納期通り1台目は今年4月納入を終り、2台目は5月中旬発送予定で鋭意製作中で、今年8月には据付を終り、運転する予定である。

本ポンプは劃期的な大容量の記録的製品であるばかりでなく、性能上種々むつかしい点があり、設計の万全を期するためにモデルポンプを1号機から6号機までの6種類製作して研究した。即ち1号機2号機は正式受註前に製作して研究を進めた。これにつづいて、3、4、5号機により実物ポンプ設計のデータを得て、実物ポンプの設計を完了し、更に万全を期するために実物と全く相似形の総合的モデルポンプ6号機により裏付試験を行つた。

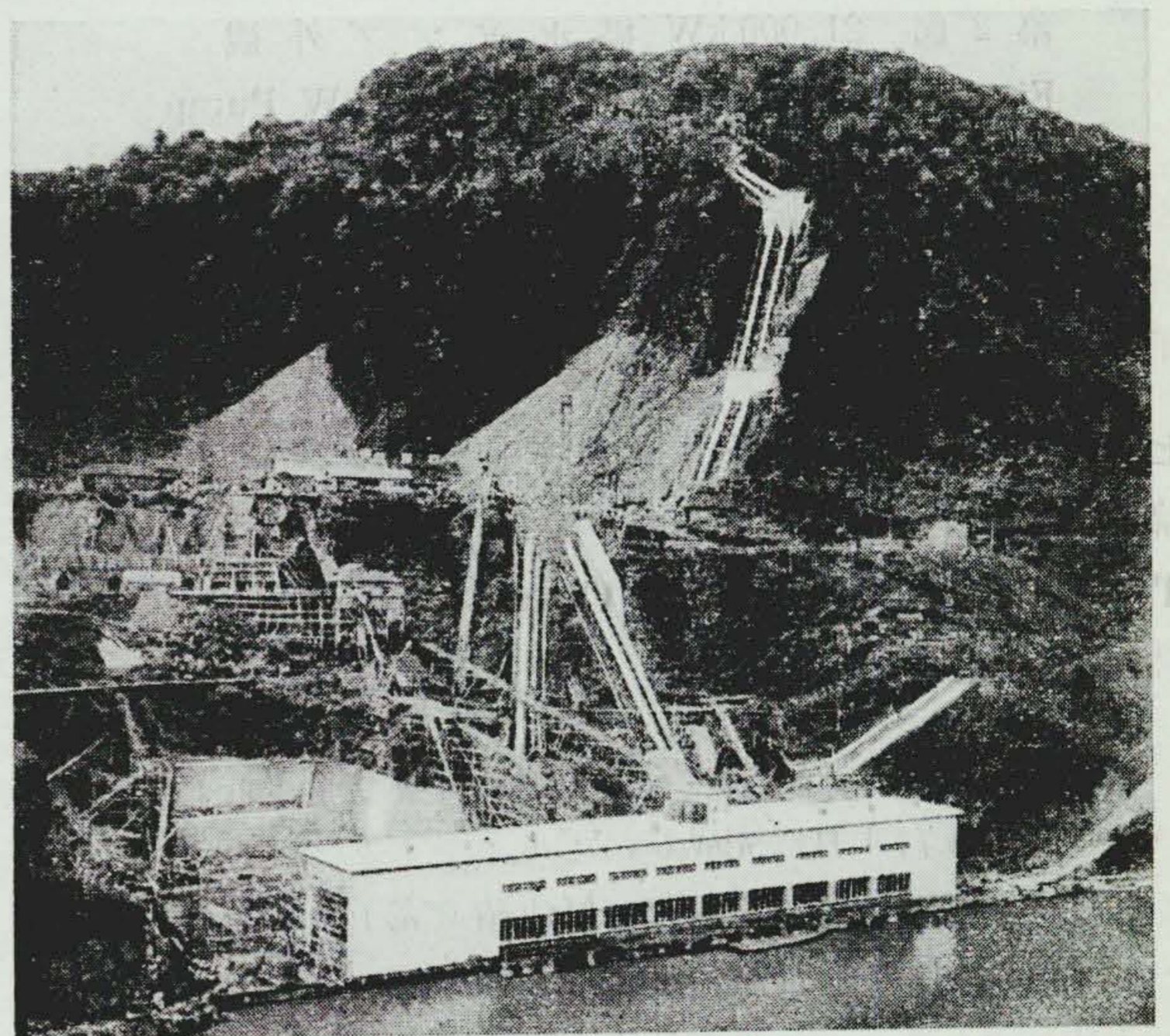
モデルポンプの試験結果は極めて好成績で最も懸念されたキャビテーションに対しても運転の全範囲に対して、十分安全な値を得ている。

実物ポンプは水車、発電機（電動機兼用）と同一軸線上に直結されたものが2組あり、揚水所要電力は42,000 kWに達し、揚水式発電所としては本邦最大のものであるのみでなく、その容量設備に於てこの種ポンプとしては、世界第4位である。

本ポンプの仕様は次の通りである。

型式 DMS-CH 横軸両吸込2段タービンポンプ

揚程 211 m (基準)



第1図 揚水式発電所全景
Fig. 1. Total View of Pumped-Storage Power Plant

揚水量 7.9 m³/sec (基準)

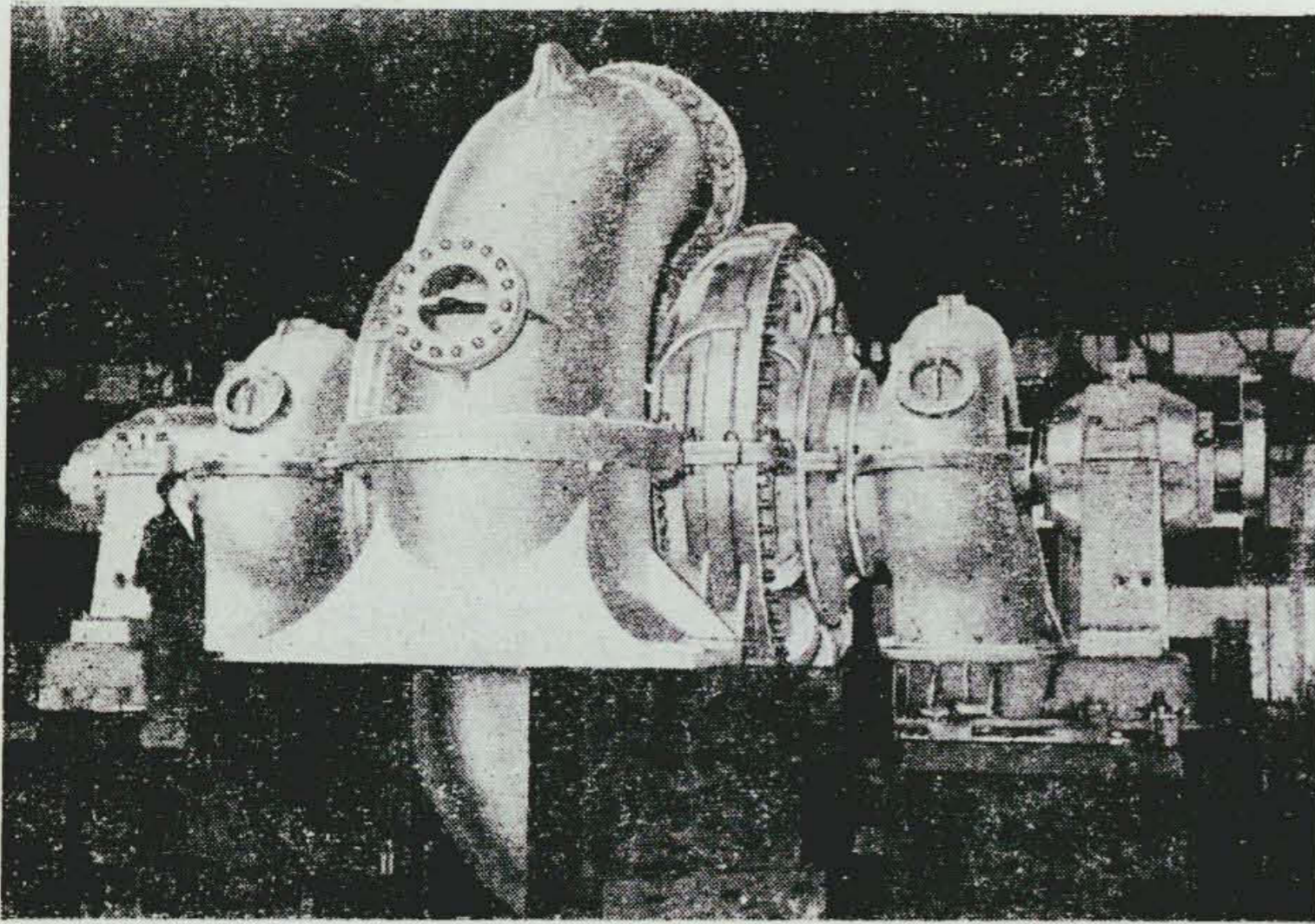
軸動力 最大 21,000 kW

回転数 500 r. p. m.

原動機 23,000 kVA 三相同期発電機を電動機として運転する。

吸込高さ 吸込側最低水位 押込 1.1 m

本発電所は順序制御機による自働運転方式を採用し、所謂“一人制御方式”で発電所の人員を極力少くしてある。揚水するには準備として、圧油ポンプ、封水ポンプ、空気圧縮機、変圧器冷却水ポンプを起動し、次に順序制御機を“準備”に廻すと、給水ポンプ、潤滑油ポンプ、真空ポンプが自働的に起動し、次に“入口瓣開”に廻すと水車の入口瓣が開き更に“起動”に廻すと水車が起動し、水車、発電機、ポンプが一緒に廻り出し、次に“励磁”、“並列”と廻すと、水車の負荷は電動機に移すと同時に水車内の水を圧縮空気により押し下げ、水車は空



第2図 21,000 kW 揚水ポンプ外観
Fig. 2. Out Side View of 21,000 kW Pump

転させる。次に“運転”に廻すと、ポンプ電動機で運転されることになる。この間警報装置、安全装置があつて、絶対に事故の起ることのないようになつている。

ビルマ向 UK 06 型フック付キャタピラクレン 完成

Type UK 06 Caterpillar Crane with Hook Completed for Burma

日立製作所亀有工場に於て第3回目の海外向キャタピラクレンが5台4月に完成し、デル・パン・コーポレーションによる特に厳重な検査を好成績で完了し発送された。本機は日立標準仕様の0.6 m³ デーゼル万能掘削機の本体にクレンフロントを装備したもので、石炭バケツ付クレン、クラムシェル、ドラグラインに組換えられるのは勿論、パイルドライバー、ショベルなどとするのも容易である。

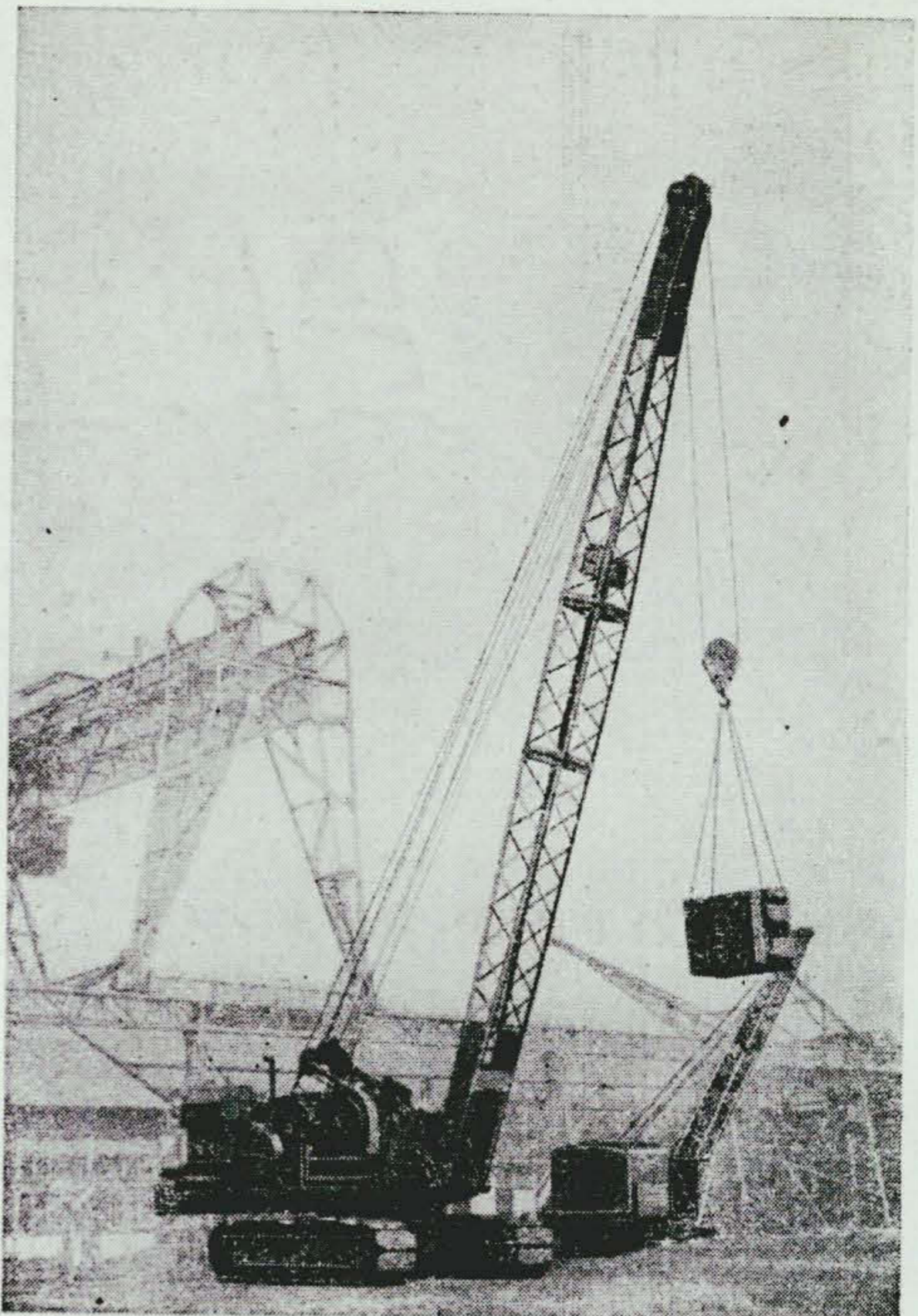
現在までキャタピラクレンとして受註したものの殆ど凡ては海外向けのもので、主として港湾荷役、建築作業(特に高層建築)水道管敷設作業などに用いられている。我国に於てもかかる方面への万能掘削機の利用法を大いに考えるべきであり、今後この機種が進出が大いに期待されることを示している。

本機は次のような特長を有している。

(1) トラックの踏張り即ちキャタピラの長さや幅が大きく、クレンの安定の点から同容量の他社製品より優れている。

(2) 荷重を吊つたままブームを僅かに下げる場合には、エンジンプレーキが働きブームが自重で倒れることがないように設計されている。

(3) 石炭バケツ付クレンへの組換えを容易にするために予備巻上ドラムを持つている。



第3図 検査中の UK 06 型キャタピラクレン
Fig. 3. Type UK 06 Caterpillar Crane in Inspection

		仕 様	
荷 重		最大	5 t
揚 程	15 m	ブーム長さ	13 m
原 動 機		ディーゼルエンジン	
		日野 10.85 l(6 気筒)	
		75 HP (1,300 r.p.m.)	
		オールスピードガバナー付	

作 業 範 囲

荷重 (t)	作業半径 (m)	ブーム角度 (°)
2	12.0~3.5	35~80
3	8.5~3.5	60~80
5	5.5~3.5	70~80

速 度

巻 上	25 m/min	ブーム俯仰	7 m/min
旋 回	5 r.p.m.		
走 行	1 km/hr (路面走行時 2 km/hr)		
接 地 圧	0.57 kg/cm ²		

外 形 寸 法

機 体 全 幅	2,970 mm (建屋を含まず)
ト ラ ッ ク 幅	2,940 mm
ト ラ ッ ク 長 さ	3,720 mm
全 高	3,000 mm
ロ ー ド ク リ ア ラ ン ス	280 mm

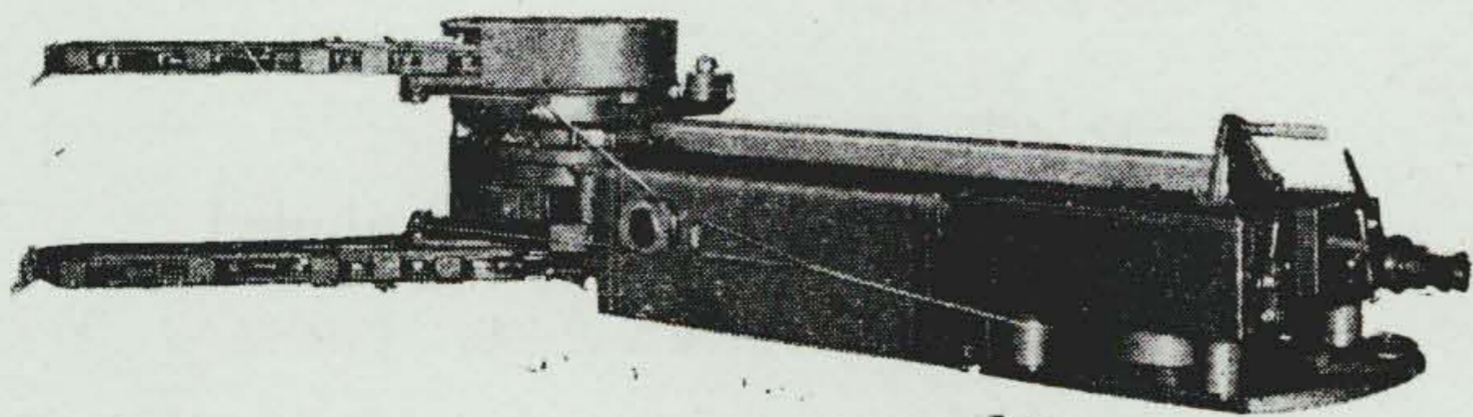
建設省納 1.6 m³ タワエキスカベータ完成す
1.6 m³ Tower Excavator for the
Construction Ministry Completed

日立製作所亀有工場に於ては富山市近郊の常願寺川の河底掘削用として既に 2 m³ 走行形タワエキスカベータ 3 台を設置し盛に活躍中であるが、更に今回 4 号機として容量 1.6 m³ のものの製作を完了した。本機は従来の経験を基として設計製作せられたもので概略仕様は次の通りである。

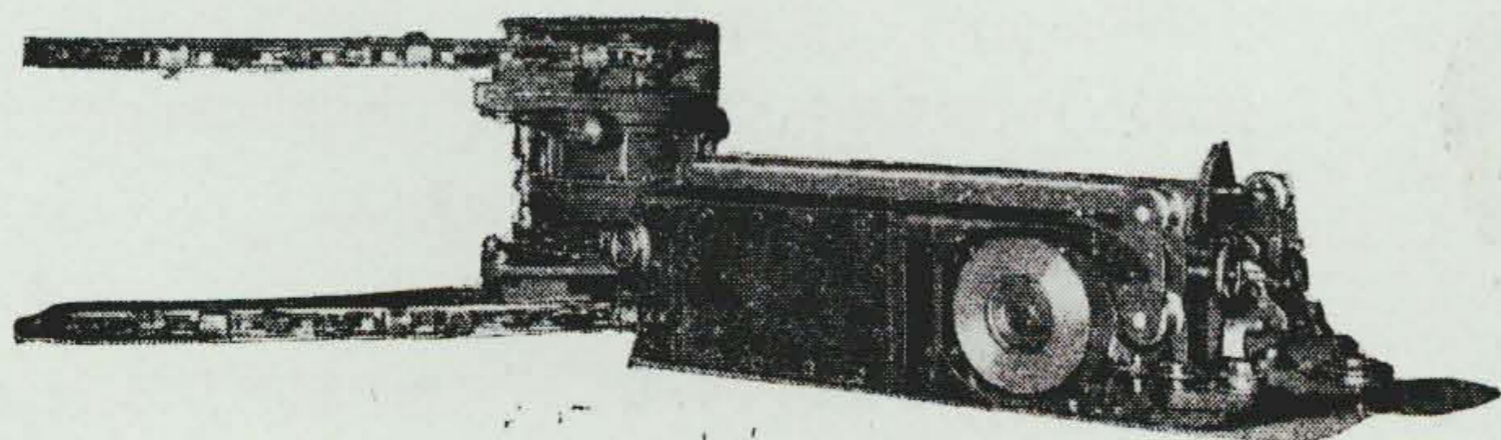
バケツ容量	1.6 m ³	主塔高さ	35 m
径 間			365 m
土掘範囲		主塔より	150~250 m
土掘速度			40 m/min
引寄速度			160 m/min
バック速度		約	300 m/min
主電動機		D. C.	75 kW
走 行		2 台	7.5 kW
電 源			3,300 V 60 ϕ

本機は従来の方式と異り速度制御にワードレオナード方式を採用して機構を簡易化し、運転の円滑化を図つた。又主ロープ、及びドラグロープにはファイラ型の特殊構造のものを使用して従来より寿命を延ばす様にした。その他バケツには耐磨耗性を持たせるため特殊の加工を施し、滑車類特に主塔上部のドラグ用のものにはゴムライニングをして鋼索の磨耗を防ぐ様にされている。

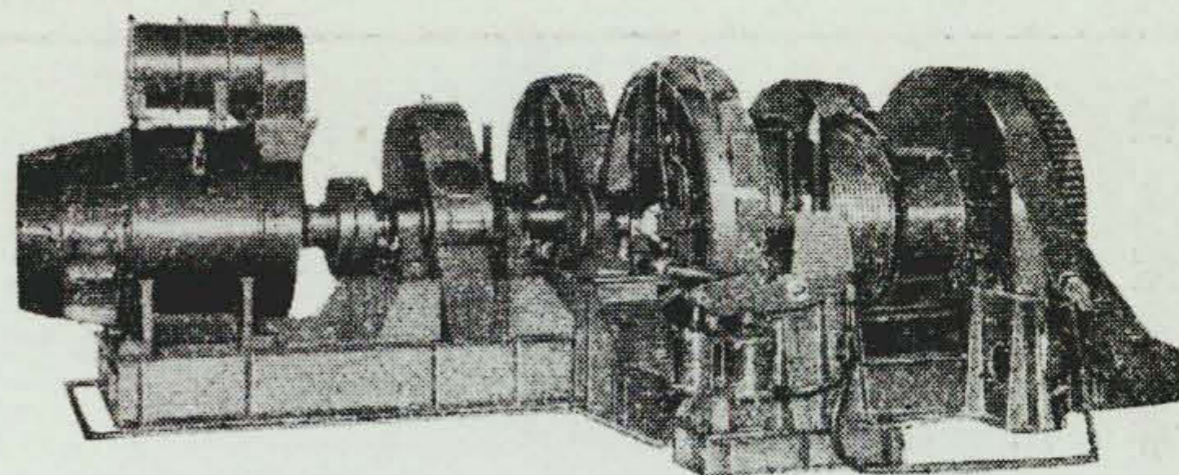
又鉄骨構造、走行装置、或は機械の構造、配置、其の他細部に至るまで、従来の経験を生かして合理的で然も経済的で斬新な設計となつている。



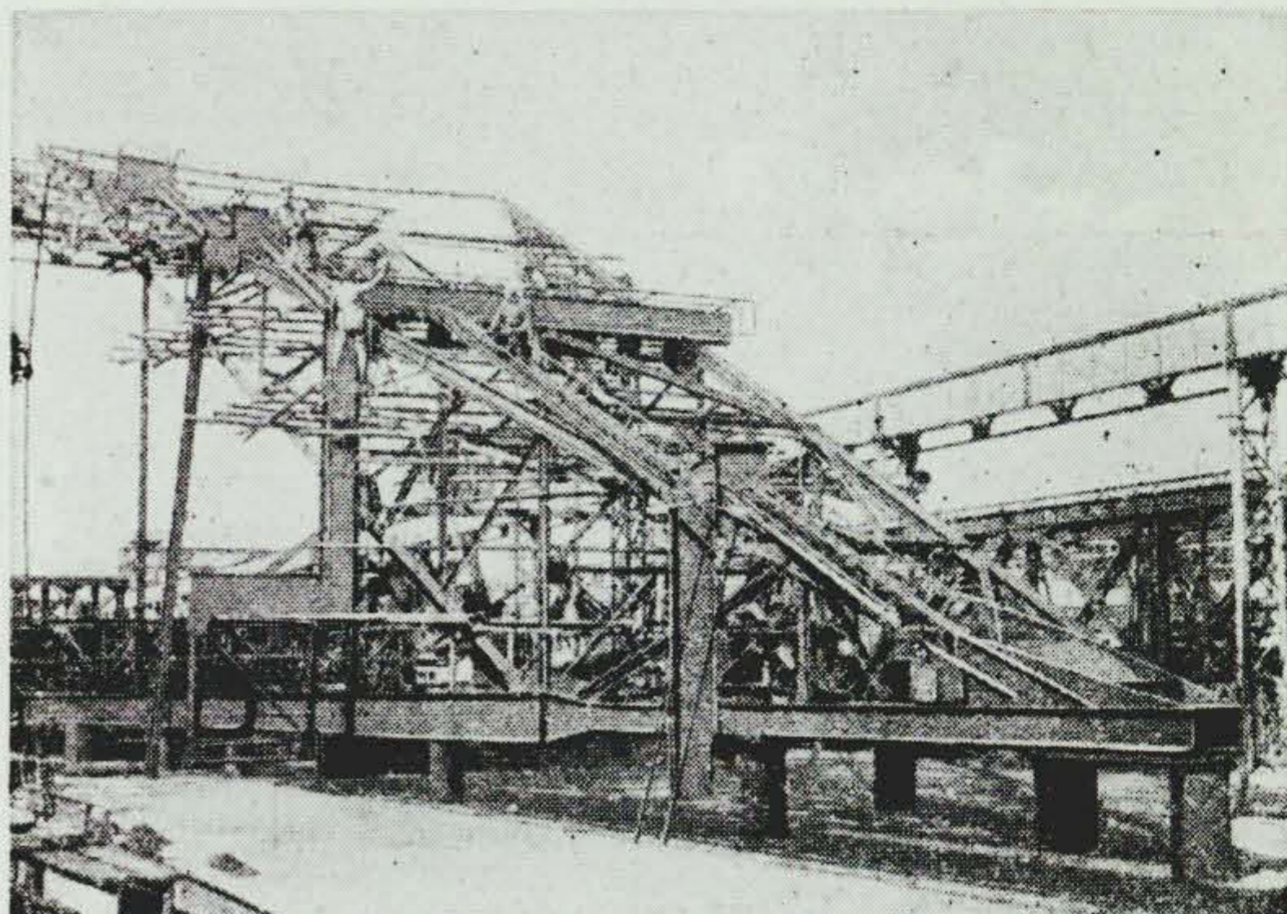
第 6 図 日立 40 kW ダブルジブコールカッタ
 Fig. 6. Hitachi 40 kW Double Jib Coal Cutter



第 7 図 日立 50 HP ダブルジブコールカッタ
 Fig. 7. Hitachi 50 HP Double Jib Coal Cutter



第 4 図 1.6 m³ タワエキスカベータ用捲揚装置
 Fig. 4. Winch of 1.6 m³ Tower Excavator



第 5 図 工場内組立中の 1.6 m³ タワエキスカベータ用鉄塔
 Fig. 5. Main Tower of 1.6 m³ Tower Excavator Under Shop Erection

日立ダブルジブコールカッタ
Hitachi Double Jib Coal Cutter

日立製作所亀有工場に於てはカッパ採炭方式の採用に伴い、H 型コンベヤと共にダブルジブコールカッタが要求され、コールカッタに対して鋭意諸研究を重ね、50 HP、40 kW 両機種 of ダブルジブコールカッタを完成した。尚 40 HP は引続き製作中である。仕様は第 1 表の通りである。

本機の特長は、

- (1) 切込には最も容易で確実なロープサンピング方式を採用し、ジブの固定は自働ロック装置である。
- (2) 透截中、松岩等の障害に対し両ジブは同時或は上下個々に抜くことができる。
- (3) 上下カッターチェンの駆動は個々或は同時に運転できる。(除 40HP ダブルジブコールカッタ)
- (4) ダブルジブコールカッタはシングルジブコールカッタとの互換性を有しているので、切羽変更に応じて容易にシングルジブコールカッタとしても使用できる。

第 1 表 仕様概要

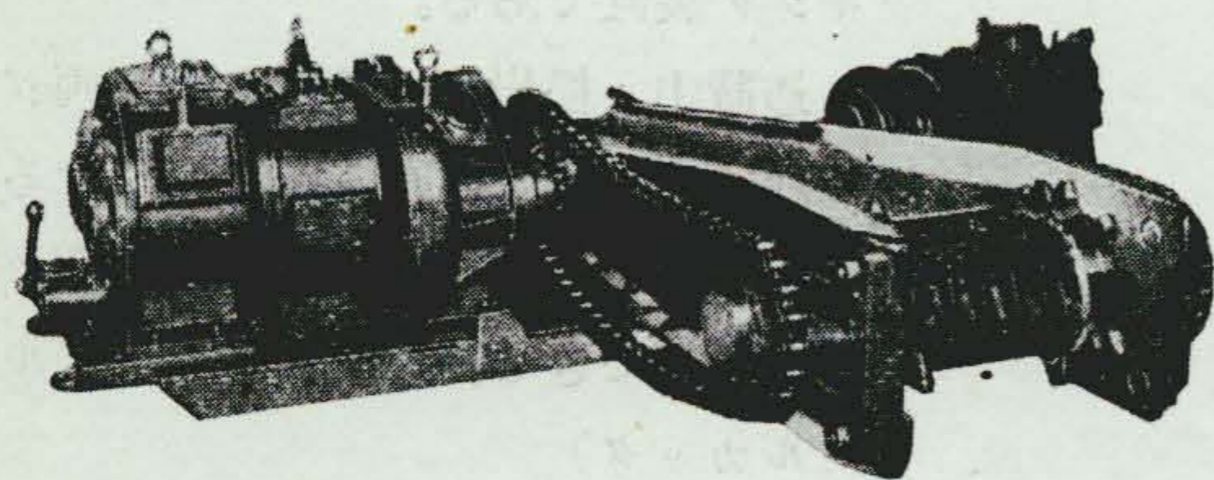
Table 1. Ratings of Hitachi Double Jib Coal Cutter

機 種		50 HP ダブルジブコールカッタ	40 kW ダブルジブコールカッタ	40 HP ダブルジブコールカッタ			
型 式		HC-DR-NE 50	HC-DRE 54	HC-DRE 40			
最 大 索 引 力			5,000 kg	4,000 kg			
常 用 索 引 力			4,000 kg	3,000 kg			
フ イード ロープ		16mmφ×25,000mm	16mmφ×45,000mm	14mmφ×25,000mm			
ジ ブ 間 距 離		680mm 780mm	600mm, 725", 850", 975"	500mm, 625", 750", 875"			
ジ ブ	幅×厚 長 さ	530mm×145mm 1,200mm 1,400mm					
ピ ッ ク 配 列		11 列 9 列					
電 動 機	出 力	50 HP		40 kW	40 HP		
	電 圧 (V)	220~440					
	周 波 数	60 [~]	50 [~]	60 [~]	50 [~]	60 [~]	50 [~]
	回 転 数 (r. p. m.)	1,740	1,450	1,750	1,460	1,750	1,460
ピ ッ ク 速 度 (m/min)	110~140		90~135	90~140	90~134	120	100
運 搬 送 り 速 度 (m/min)	5.75		4.80	7.82	6.5	8.8	7.32
透 載 送 り 速 度 (m/min)	0.25 0.50 0.75 1.0 1.25	0.21 0.42 0.63 0.83 1.05	0.435~0.965	0.365~0.810	0.425~0.75	0.355~0.63	

エアーモータ駆動 H 形ダブルチェーンコンベヤ
Air Motor Driven H Type Double Chain Conveyor

最近各炭鉱に於てカッベ採炭に移行し、切羽運搬機として日立ダブルチェーンコンベヤが広く使用されている。

従来のダブルチェーンコンベヤは主として電動機に依つて駆動されているが坑内のガス事情等の為電動機を使用し得ない炭鉱ではこれの代りにエアーモータ駆動が必要となる。今般この要求に応じて亀有工場に於てエアーモータ駆動による H 形ダブルチェーンコンベヤを完成した本機は 20 HP エアーモータ 4 台にて深、肩、各々に 2 台を配置しローラーチェーンを介してコンベヤスプロケットを駆動するものでその駆動部分を第 8 図に示す。



第 8 図 エアーモータ駆動形ダブルチェーンコンベヤ駆動部

Fig. 8. Driving Head of Air Motor Driven H Type Double Chain Conveyor

本機の仕様は次の通りである。

型 式 H-T₁-2S-C₄

コンベヤ運搬容量 100 t/hr コンベヤ長 100 m

コンベヤ幅 0.62 m チェン速度 0.65 m/sec

空気原動機 20HP 圧力 6 kg/cm² 40 r. p. m.

尙本機はエアーモータ駆動であるから過負荷防止用動力伝導平衡用として電動機駆動の場合に使用する流体接手を必要としない。

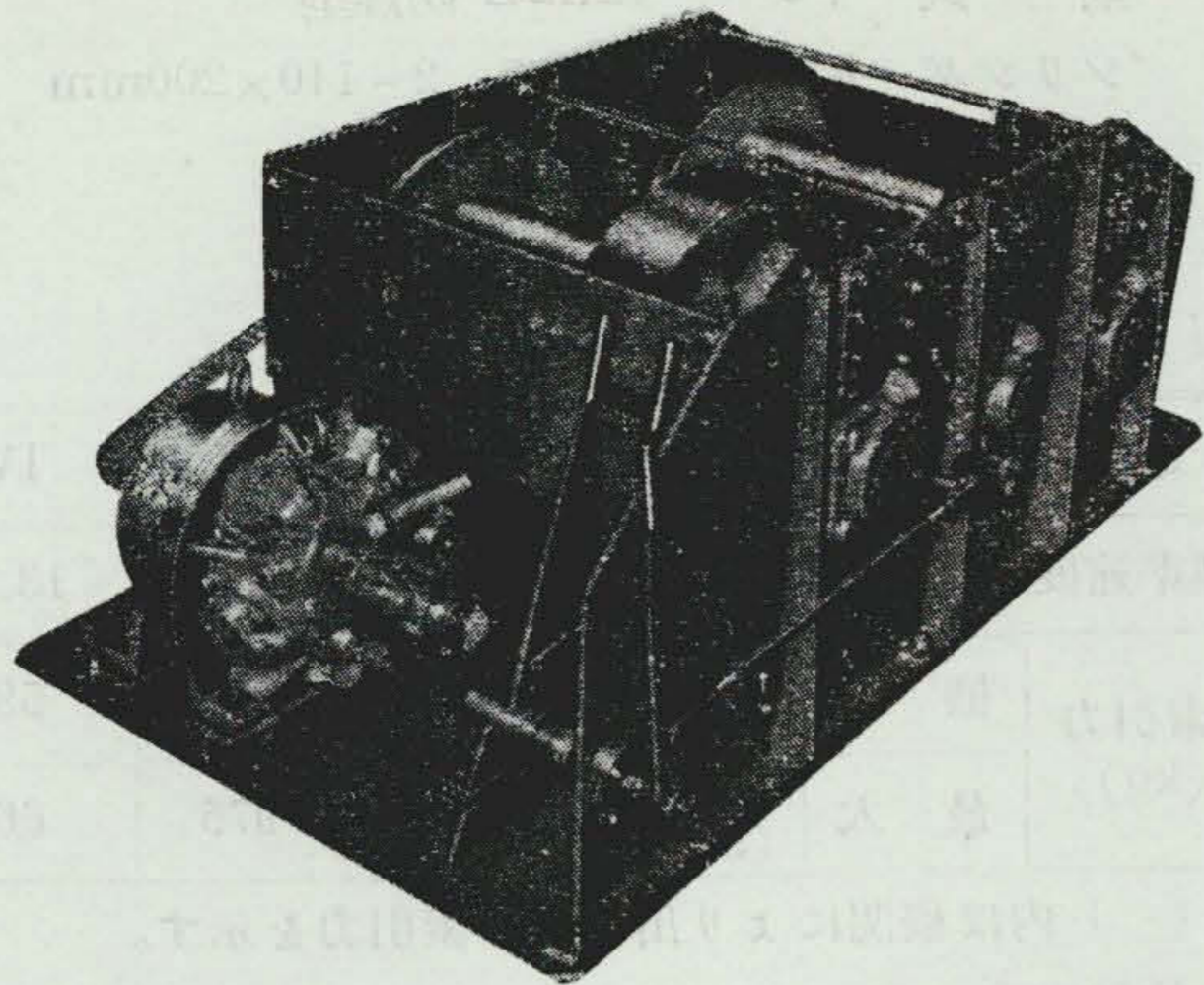
コーレンホーベル用巻上機

Winding Machine for Kohlenhobel

炭鉱内における採炭法が近來特に機械化されつつあることは採炭技術の向上を示すものであるが、種々の条件の下に最も適した採炭機を選ぶことは極めて肝要なことである。

長壁式採炭法において炭質の比較的柔い所ではホーベル採炭法を行つて能率を上げることが出来る。ホーベル採炭法は所謂剥離採炭法の一つで丁度鉋で炭壁面を削りつつこれを自動的にコンベヤ内に積込んで行く方法で簡単且つ能率のよい採炭法である。従つてホーベル採炭機にはそれ自体原動力を必要とせず他の原動力でこれをロープ又はチェーンによつて牽引して所期の目的を達するものである。

亀有工場はこの目的に使用する巻上機即ちコーレンボ



第 9 図 コーレンホーベル用巻上機
Fig. 9. Winding Machine for Kohlenhobel

ーベル用巻上機を完成したのでこれを紹介する。

本巻上機の仕様並びに構造は上記目的に適する如く十分考慮されており、小型堅牢にして取扱簡単、且つ危険性のない様に作られているので狭隘なる炭坑内切羽にて使用するに適している。

フレームは筐状に構成され下方はスキッド状になっている。このフレーム内に A, B 2 個のドラムがタンデム型に設けられている所謂タンデム巻上機である。

原動機には空気原動機を使用しておりこれは微速回転ができるので危険性が少く、正逆の切換が容易で且つ又過負荷の場合に自動的に停止するから安全である。原動機自体には減速機が含まれているから駆動系統が極めて簡単な機構でチェーンにより一段、ギヤで一段減速しているのみである。従つて取扱が極めて容易である。

本機は上記用途の他にカッターローダ採炭法の牽引にも使用して効果をあげることができる。

本機の仕様は次の通りである。

用 途	コーレンホーベル用、 カッターローダ用	
型 式	DDT-B ₂ GH	
ローププル (kg)	5,000	
ロープ速度 (m/hr)	200	
切羽長さ (m)	120	
	A ドラム	B ドラム
ドラム径 (mm)	500	500
ドラム幅 (mm)	700	500
ドラムフランジ径 (mm)	820	820
ロープ径 (mm)	20	20
ロープ長さ(含地巻)(m)	550	400
原 動 機	15HP 空気原動機軸端回転 数 35 r. p. m. 使用圧力 4~5 kg/cm ² 可逆式	

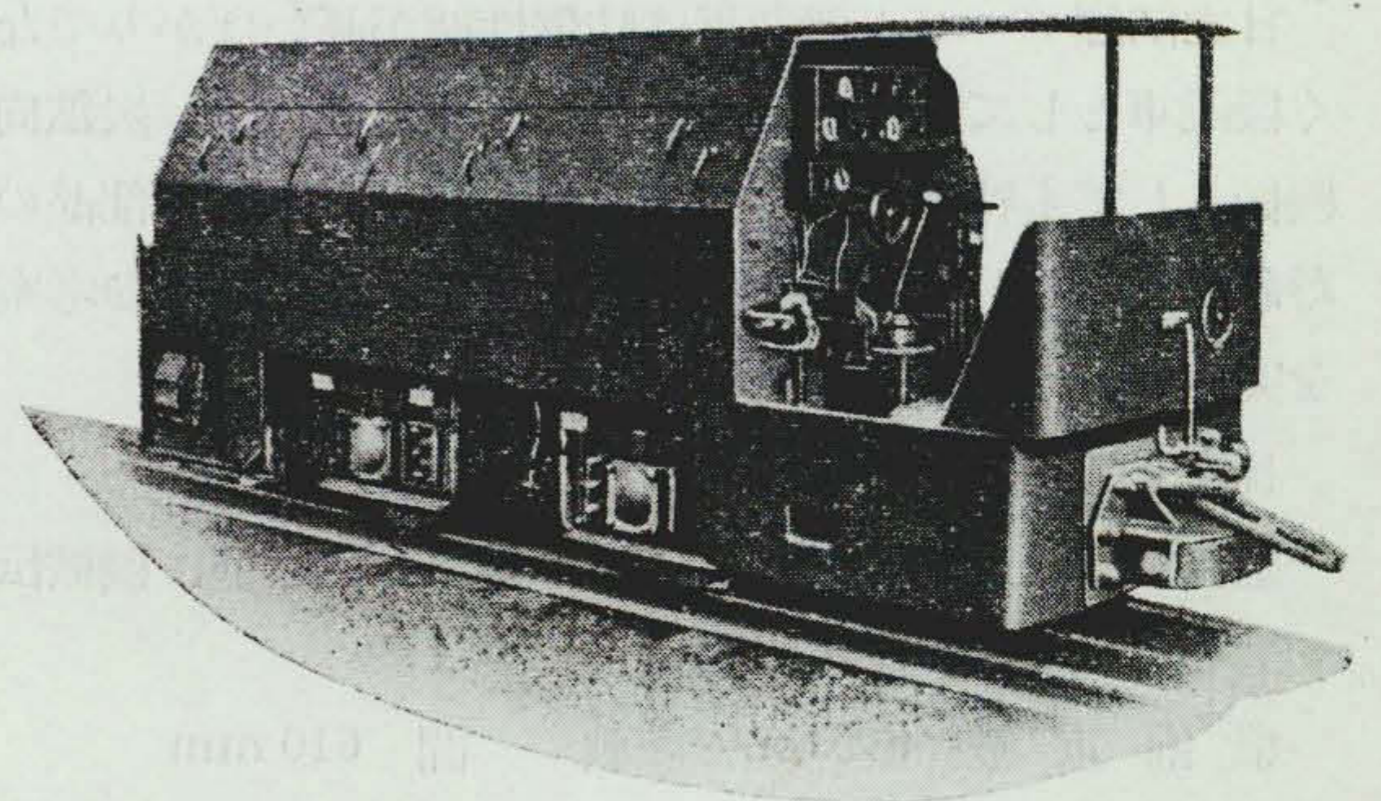
國産最初の本格的防爆ディーゼル機関車完成、
検定合格番号九検第 1341 号
Finished Hitachi Explosion Proof Type
Diesel Locomotive

戦後炭鉱業者の欧米視察の結果防爆ディーゼル機関車が経済的、且つ便利で広く使用されて居る事が注目され、最近国内に於ても盛んに之が使用計画され相当数輸入されつつあるが補修部品の入手に迅速簡易を要する立場から優秀な国産機の出現が強く期待されて居る。

日立製作所に於てもいち早く之が研究に着手し業界の要望に応えるべく研究して居つたが、過般三菱鉱業株式会社より試作注文を受け鋭意設計製作中の処これが完成を見、去る3月28日より4月3日に亘り笠戸工場に於て工業技術庁鉱業技術試験所及び同九州支所の立合のもとに検定を受け何等の問題点もなく極めて好成績を以て合格し国産機として最初の本格的防爆ディーゼル機関車を完成した。

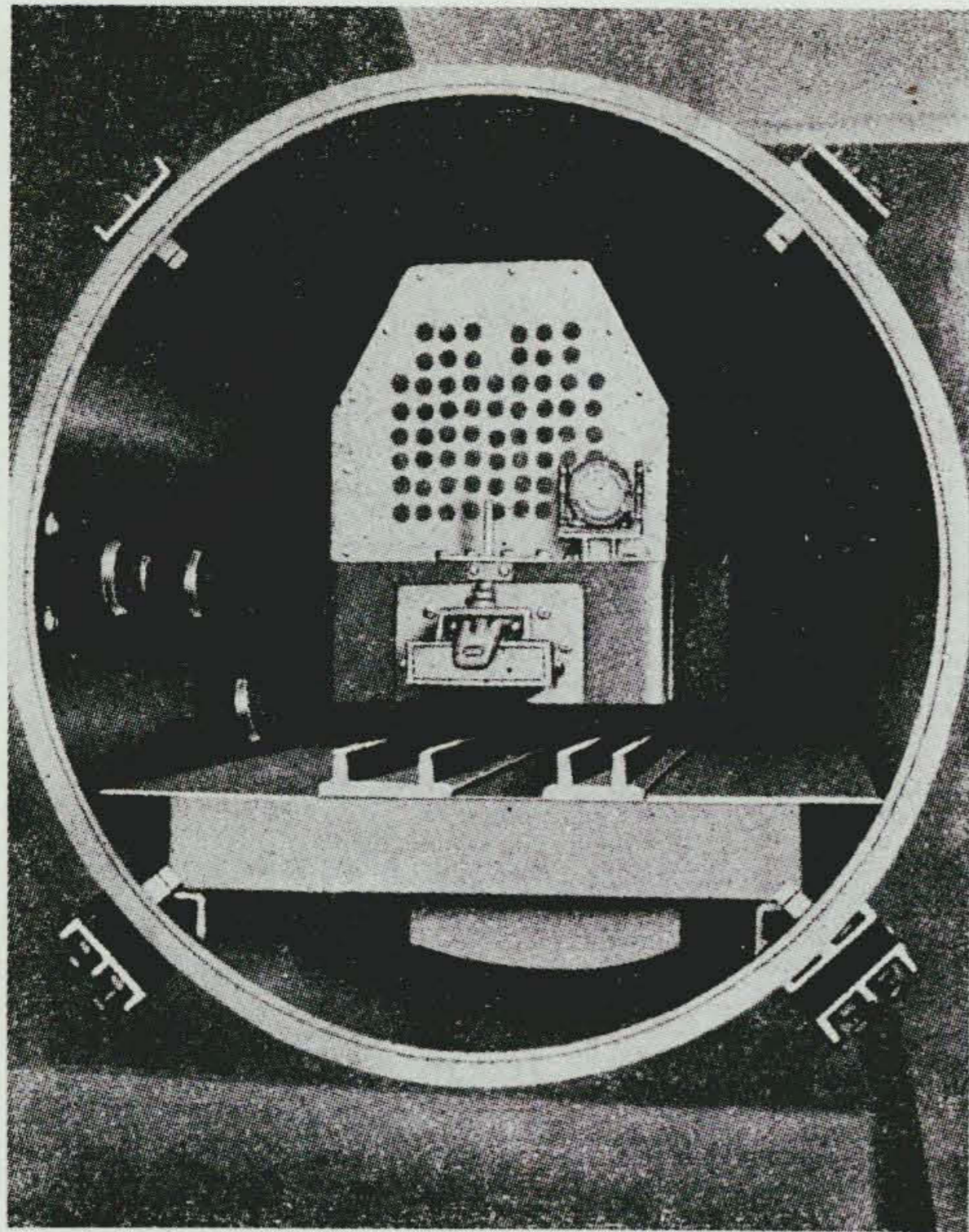
防爆ディーゼル機関車は従来の防爆電気機器に比し、その防爆対策は相当趣を異にし、防爆上のみならず、保安衛生上にも色々問題点があり、安全度試験としては引火試験、温度試験、排ガス成分の検査等を実施する事が要求されて居る。特に機関の吸排気系統内に於けるメタン—空気混合ガスの爆発に依る引火試験は、系統内のガスが静止して居る場合と流動して居る場合に就いて試験する事が要求されて居る。又温度試験では負荷を掛ける事が必要で、試験装置に於ても電気機器の防爆試験装置とは全く趣の異なるものが必要で、相当大掛りなものとなるが、国内には未だこの様な試験装置は設備されて居ないので、これに必要な試験装置をも設備して検定を受けた。

上記試験装置の主体は洞室に無限軌道式機関車試験台を装置し、機関車の運転、測定その他の操作を凡て洞室



第 10 図 日立 XDMC-6B-I 型 6 t 防爆型ディーゼル機関車

Fig. 10. Hitachi 6 ton Explosion-Proof Type Diesel Locomotive Type XDMC-6 B-I



第11図 防爆型ディーゼル機関車試験洞室

Fig. 11. Testing Cell for Explosion-Proof Type Diesel Locomotive

外から行い得る様に設備した特別の考案に依るもので、検定試験案に指定されて居る項目の外、機関車全体をガス室内での全負荷運転その他機関車としての種々な性能試験も可能なものである。

ディーゼルエンジンはヤンマーディーゼル株式会社の協力を得て機関車及び炭鉱用として連続重作業に、又性能的にも好適な船舶、発電用等に使用されて居るものを防爆型に作り替えたもので起動方式は元々空気起動式となつて居り防爆型として満足出来るものである。又このエンジンは1気筒より4気筒までのシリーズがあり4, 6及び6, 8, 10の機関車に装備され磨耗部品が共通である為、同時に多型式の機関車を使用する場合に特に好都合である。

日立防爆ディーゼル機関車は防爆性能が高いばかりでなく機関車として優れた特長を持たせると同時に、炭鉱向機械としても特に考慮を払い取扱い容易とし磨耗部品の寿命を長くし且つ故障の発生を防止する事に独特の考案を実施し、幾多の技術的特性を持たせてある。

日立6吨防爆型ディーゼル機関要目

型式 XDMC-6B-I-610. 防爆型、機械伝動鎖駆動式

整備重量 6.5 ton 軌間 610 mm

車輪径及び軸距 510 mm×1,050 mm

外形寸法 長(台枠)×巾×高

3,400×1,100×1,500 mm

ディーゼル機関

型式 ヤンマー 2LDL 防爆型

シリンダー数—直径×行程 2—140×200mm

最大出力 37.5 HP/850 r. p. m.

定格出力 33 HP/850 r. p. m.

速度及び牽引力

速度段		I	II	III	IV
標準速度 (km/hr)		2.3	5.0	8.8	13.0
索引力 (kg)	標準	2145 (3170)	1530	860	580
	最大	2145 (3640)	1740	975	660

() 内は機関により出し得る索引力を示す。

始動方式 デストリビューター式圧縮空気始動

始動空気充填方式 機関の一気筒を圧縮機とす

防爆装置 吸気フレームトラップ、排気フレームトラップ、排気冷却水噴射装置、排気処理箱、燃料及び空気自動遮断装置(排気温度の上昇、排気冷却水圧力の異状、冷却水タンクの水位率低下に依り作動)、炭酸ガス消水器(固定及び可搬式の二系列)よりなる。

動力伝達装置 乾燥多板式主クラッチ、常時嚙合選択摺動爪クラッチ式変速機、傘歯車式逆転機、銷駆動装置よりなる

走行装置 タイヤー付車輪、コロ軸受入軸箱、重ね板バネ式担バネを使用す

車体及び台枠 鋼板及び型鋼組立式、一部鋳鉄製にして頑丈なる構造とす

制動装置 全輪作用式空気ブレーキ及び非常用手ブレーキ

砂撒装置 空気操作式 警報装置 空気笛式

照明装置 ダイナモ式(前照灯 30 W×2 機器は凡て耐圧防爆型)

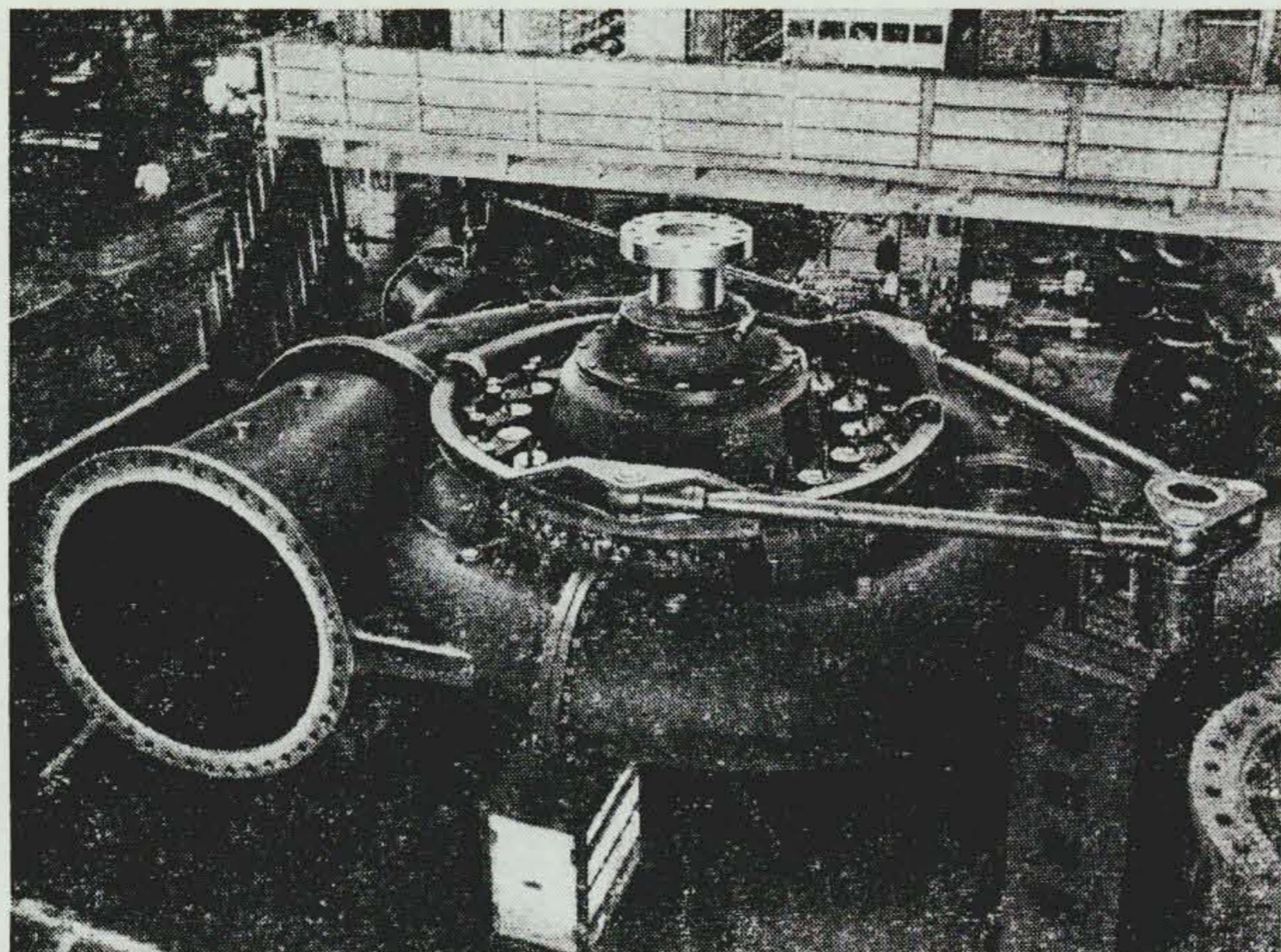
運転装置及び計器 左側運転とし運転器具及び計器を完備し運転に至便に配置してある。

台湾天冷発電所水力発電機器

Hydroelectric Power Equipment for Tien-leng Power Station, Taiwan

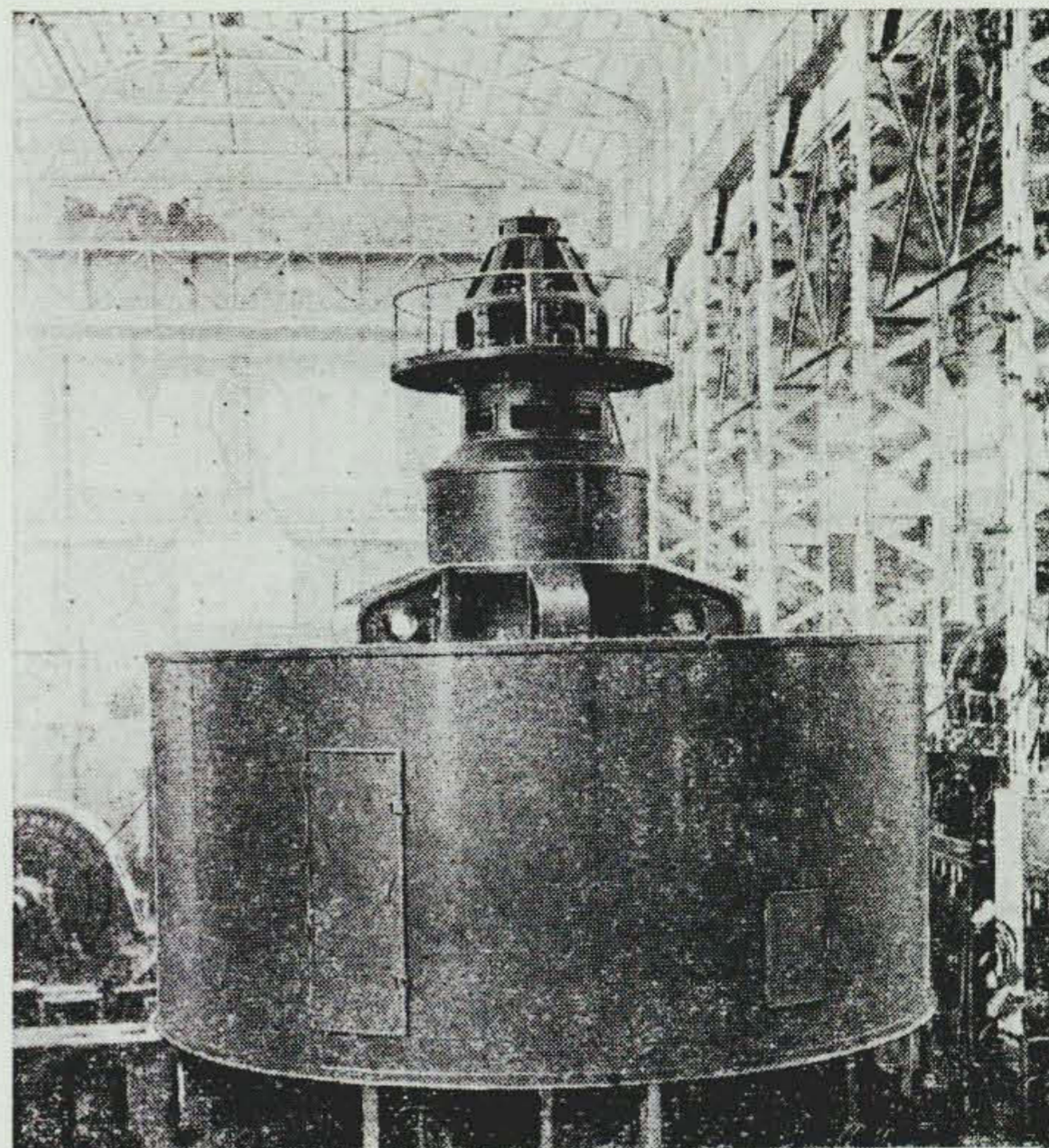
台湾電力公司天冷発電所納水車及び発電機は、戦後最大容量の輸出品として斯界注目の中に、先般日立製作所日立工場に於てその第1号機が完成され、目下現地据付中であり、引続いて第2号機が受註、製作されている。

本機は中国国民政府が ECA 資金により実施している中部台湾大甲溪開発計画の一部をなすもので、運転開始の際には逼迫せる台湾の電力事情緩和に大いに役立つものである。



第 12 図 台湾電力公司天冷発電所 26,500 kW
フランスス水車工場組立

Fig. 12. Shop Erection of 26,500 kW Vertical Francis Turbine for Tien-leng Power Station, Taiwan



第 12 図 台湾電力公司、天冷発電所
28,500 kVA 交流発電機

Fig. 12. 28,500 kVA Alternator for Tien-leng Power Station, Taiwan

水車、発電機とも厳格なる規格によつて設計、製作された結果、何れも工場試験において優秀なる成績を収めやがて現地において日立製品の真価を発揮することである。以下水車および発電機について概要を紹介する。

1. 水 車

水車はフランスス水車としては比較的高落差に使用される下記仕様のものである。

最大出力	26,500 kW	特有速度	104 m-kW
有効落差	173 m	設置台数	完成後 4 台
使用水量	17.4 m ³ /s	但し	据付中 1 台
回転速度	400 r. p. m.	製作中	1 台

保証事項としては、最高効率 91%、最大速度上昇率 30%、最大水圧上昇率 25%、無拘束速度 180% である。

a. 水車本体

ケーシングは鋳鋼製で、入口部は 1,800mm の口径を有する大型なため四つ割となつて居り、31kg/cm² の水圧試験が行われた。建家は二床式構造で、水車軸は主軸と中間軸とよりなり、水車上カバーは内外に分かれ、かつガイドリングはガイドベーンの外側に設けられて、水車の分解は水車室において容易に行うことができる設計となつている。

大甲溪の流水は土砂を多量に含むため、ランナーおよびガイドベーンなど流水にさらされる部分には耐摩耗性の材料を使用した。特にカバーライナーには不銹鋼板を用い、工程の短縮、材質の均一化、および耐摩耗性の増大を考慮した。

水車は工場において模型試験を行つた結果、最高 89.5% の効率が得られ、これをムーデイ式により実物水車に

換算すれば 92.3% とより、保証値 91.0% を遙かに上廻る好成績を示した。

b. 附属機器

入口瓣は口径 1,800 mm の油圧式四角型蝶形瓣で、口径 300 mm の側瓣を有している。落差が蝶形瓣に対しては高い方に属するので、特に水密の完全を期するため瓣外周にはゴムチューブを挿入し、全閉時には特殊プランジャーポンプによりチューブ内に高圧水を供給する方法をとつた、18kg/cm² の水圧試験の結果は、殆ど漏水が見られない好成績を示した。

调速機は発電機頂部に設けられた永久磁石式発電機を電源とする電動機により駆動される。負荷の調整には負荷制限装置のほか、水銀式水位調整機が併用される。サーボモータはアクチュエーターと一体構造で、手動ハンドルを具えている。

圧油及び潤滑油装置は単独式で各水車発電機毎に設けられ、常用ポンプは電動機に、予備ポンプは小水車によつて駆動される。

水車の運転制御は所謂一人制御方式によりすべて配電盤室より操作できると同時に、水車室にある水車制御盤によつても行うことができる。

なお水圧鉄管の上方には電動操作式 2,700 mm の鉄管瓣(蝶形瓣)が設けられ、水車と同時に製作された。

2. 発 電 機

発電機は比較的高速度大容量なため、特にその通風に留意し、かつ能率の向上に種々考慮を施した結果、温度上昇は 28,500kVA、80°C の規定に拘らず極めて低い値を示し、能率も保証値を遙かに上廻り、その他の性能も

非常に好成績を示した。

発電機の仕様は次の通りである。

容 量	28,500 kVA 於温度上昇 80°C		
	25,000 kVA 於 "		60°C
型 式	堅軸閉鎖通風風道循環型		
電 圧	11,000 V	極 数	18
周波数	60 \sim	回転速度	400 r. p. m.
力 率	0.9	GD ²	290 t-m ²
短絡比	1.0 以上 於 25,000 kVA		
励磁機	主 140 kW, 220 V 副 3 kW, 110 V		

a. 発電機構造

固定子は4つ割で、背が高いため固定子枠は特に頑丈な構造とした。鉄心は冷却に十分な風量を通るような特別設計とした。固定子線輪はマイカを主体とした完全B種絶縁が施された。

回転子の継鉄は鍛造製とし、鋳鉄製輻鉄に焼嵌めする構造とした。また鉄心は積厚が2mにも及ぶのでその中心部にまで有効な通風が行われるよう数個に分割され

た継鉄間にデイスタントピースを溶接により挿入して回転子中央部よりの通風孔を設けた。

推力軸受は最も合理的な偏心支持によつて楔状の油膜の形成を容易ならしめる構造とした。

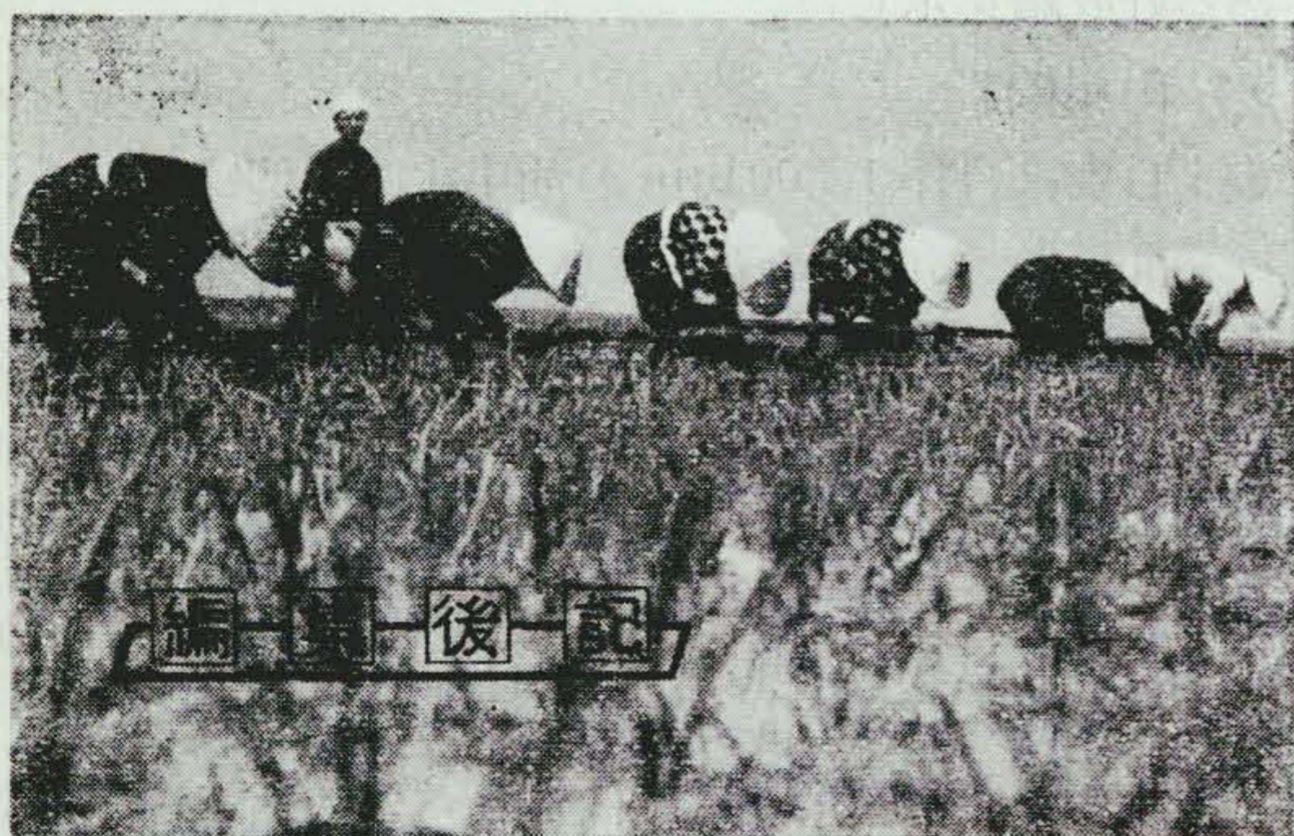
制動機は油圧式で粉末飛散防止装置が施されている。

消火装置は炭酸ガスを使用する確実な方法を採用した。空気冷却器は冷却水温が高いため、十分なる冷却面積を持つ設計とした。

b. 発電機の特性

本機は工場において完全に組立てられた上各種の特性試験が行われたが、極めて優秀なる性能を有することが実証された。

即ち能率は精選された材料とすぐれた設計によつて非常に高い値が得られ、温度上昇は空気冷却器付で電機子線輪及び界磁線輪とも40数度と云う極めて低い値で十分余裕のあることが明かにされた。その他無負荷電圧波形、各種リアクタンス等も実測されたが、何れも満足すべき結果を示した。



戦後始めて世界の外交界へ派遣される各国大公使の第一陣として、英米大使が夫々出発。亦米国からマーフィ大使等が赴任して、漸く我国も世界各国に伍し平和国家の面目を発揮する機会が到来したが、日本工業技術界も愈々世界に比肩すべく各方面とも研究に邁進、就中電源開発計画に伴い電気事業界の躍進は一層目覚ましいものがある。

本誌も、先般来日立製作所全工場に亘る技術陣を動員恒例の地域別に「総合編集委員会」を戸畑工場並に中央研究所に於て開催、本年後期及び来年度の編集方針を確立し、重ねて技術研究誌としてのあり方に就て検討して、「昭和27年度の日立技術と成果」(総まくり号)刊行への拍車をかけた。

本号は前号に劣らぬ内容の充実と執筆陣の豪華を誇るもので、巻頭の「日立水冷式単極水銀整流器」は他の型式に優先して使用されている日立水冷単極水銀整流器の最近の改良と性能の進歩、容量の限界について説明したもの、以下10篇とも異色あるものばかりで、「タンゲステン粉末の粒度分布の研究」(伊地山昇)は3篇に分載したが今回完結したものである。

尙、「Hitachi Review」No. 1(創刊号)も刊行と同時に各国に郵送、内外共に好評を博しているが、No. 2を7月上旬に刊行する予定で目下編集中である。本誌同様御愛読を乞う次第である。(寺沢生)

第 34 卷 日 立 評 論 第 6 号				編集兼発行人 長谷川 俊 雄	
禁 無断 昭和 27 年 6 月 25 日 印刷 転載 昭和 27 年 6 月 30 日 発行				印 刷 人 花 崎 実	
禁 無断 昭和 27 年 6 月 25 日 印刷 転載 昭和 27 年 6 月 30 日 発行				印 刷 所 大東印刷工芸株式会社	
誌 代	誌 数	定 価	送 料	発 行 所 日 立 評 論 社 東京都品川区大井坂下町2717 振替口座東京71824番 電話大森(06)111-10番, 3131-10番 会 員 番 号 A 208062番	
	1 カ月分	¥ 100	¥ 12		
	6 カ月分(4割引)	¥ 430	(送料共)		
	1 カ年分(4割引)	¥ 840	(送料共)		

広告取扱店 東京都港区芝南佐久間町 1の26 電話芝 (43) 4317 広 和 堂